

とちぎ発

# 元気農業

ふるさととちぎ21活性化塾だより



平成22年

50号



東京ビッグサイトで開催されたアグリフードEX P 2010の会場

アグリフードEX P 2010は、国産にこだわった全国的な展示商談会で、今年で5回目を迎え栃木県農業振興公社は前年に引き続き2回目の出展となり、農商工連携等で開発した新商品を出品いたしました。

参加企業・団体等も回を増すごとに多くなり、また訪れるバイヤーも多種に渡ってきました。

今回は、県・栃木銀行・産業振興センター・農業振興公社がポスター等のディスプレイを統一して出展し、22の企業・団体に参加をいただき盛会に終了できました。



バイヤーに出品した商品を説明

## 目次

- 1 アグリフードEX P 2010出展
- 2 高根沢町元気あっぷむらの元気のみなもと
- 3 新農業ビジネスに取り組む若手起業家がネットワーク
- 4 農商工連携で認定を受けた事業計画の紹介
- 5 ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集  
美しいとちぎのむら写真コンテストの募集
- 6 とちぎ夢大地応援団実施計画
- 7 食と農の組織活動を支援・つなごう食と農実践講座を開催
- 8 農業振興公社HPに農商工連携の開設・お知らせ



## 「高根沢町元気あっぷむら」の元気のみなもと

高根沢町元気あっぷむらは、国庫事業を導入して平成9年5月に町の地域振興の核として期待を担ってオープンし、今年で14年目を迎えています。

この間、長引く景気の低迷にかかわらず関係者の熱心な集客等の取り組みが功を奏して、多くの人に利用されすっかり地元で根ざした施設となり、経営は5期連続の黒字となって健全な経営を展開しています。

楽しい体験、おいしい食を信条に「食と健康」をキーワードとして、安全・安心にこだわった高根沢町産農産物をふんだんに用いた料理を提供しています。本館

「いちょう」の中華レストラン「青海」や郷土料理「あやめ」は、減農薬・減化学肥料のコシヒカリと毎朝直売所から地元産の安全で新鮮な野菜等の季節性のある食材を豊富に使って調理しています。

レストラン「あやめ」は、メニューに創意工夫して特徴のある料理を提供している。その一端を紹介すると、天然のすなさびやどじょう、やしおマス等をその土地でしか味わえない食材を、期間限定ではあるが8割程度地元産の食材で賄っています。



直売所はJAしおのやが管理主体となって運営し、出荷登録者はオープン当時は60数名から始まり、現在は380名にまで増えてきて安全で美味しい高根沢町農産物を生産するため、有機堆肥を投入するなど循環型農業に取り組み質量とも格段に進展しています。

平成21年度の直売所利用者数は19.1万人、総売上高は2億円以上に上っている。近年、課題としてお客様の流れが複雑で手狭になってきた直売所を利用者の利便性の向上を図るため、建物を改造する計画に迫られています。



さらに、お客様のクレーム対応の一環として苦情の多かったスイカを、今年から生産者は氏名だけでなく電話番号まで明記して出荷するなど、直売所を運営する協議会はお客様第1の店づくりを目指し改善に努力を重ねています。

豆腐の加工・販売を運営している農村女性が起業した「豆タクラブ」は、材料の大豆は地元産で学校給食へも供するなど地産地消を実行し、中でも地元の食材で賄っている「がんもどき」は絶品と好評を得ているとのこと。

最後に支配人から第2源泉が9月中旬に完成して湯量豊富な天然温泉で、身も心もゆっくりのんびりとくつろげるので、是非皆様にご来店願いたいと自信に満ちた話をいただきました。





## 新農業ビジネスに取り組む若手起業家がネットワーク

「農業6次産業化でとちぎの農業をもっと元気に」を合い言葉に、7月1日、とちぎアグリプラザで新農業ビジネス若手起業家交流会が初めて開かれました。自家生産した農産物を最大限に活用し、こだわりの加工品や多様なマーケティングにチャレンジしている県内の起業家が、県農業振興公社の呼び掛けにより一堂に会したもので、参加者全員が相互に交流を深めました。

交流会に参加したのは、概ね30歳代の若手起業家13名で、男性とともに女性も半数参加しました。米麦、いちご、野菜、酪農、肉牛、養豚など農業分野は様々ですが、農業経営及び自家生産物を基盤として、直売活動や農産加工、農商工連携、観光農業など、多彩な農業ビジネスに意欲的に取り組んでいます。

これら若手起業家に共通している点は、「自家農産物に誇りと自信をもっていること、安心・安全な生産に最大の注意を払っていること、そして商品の食味と品質に徹底的にこだわっていること」です。

この日の交流会では、参加者一人ひとりが、農業ビジネスに取り組んだ動機や経緯、新商品開発の製造方法やノウハウ、販路開拓の工夫、今後のビジョンや計画などについて発表しました。発表後の質疑応答や意見交換も活発に行われ、予定した時間を大幅に超過するほどでした。

昼食時には、参加者が商品開発した牛肉入りカレーやヨーグルトを試食しながら、引き続き参加者同士の交流を深めました。

午後の部の現地研修では、宇都宮市内の「お菓子の工房めるしー」を訪ね、施設内を見学するとともに、当店を経営する養鶏農家、卵明舎代表の寺内昌文氏から講話を拝聴し、懇談しました。

交流会を契機に、今後会員同士が連携を深め、ネットワークを構築することにしており、そのための代表世話人として、前田牧場（大田原市）専務の竹原智恵子さん、あさの農産物加工所（さくら市）専務の浅野重勝さんが選ばれました。

交流会を主催した県農業振興公社では、新農業ビジネスを展開する上で、経営センスと行動力に優れた若手起業者に大きな期待を寄せており、今後、意欲ある起業家の組織活動を支援していくことにしています。





## 農商工連携事業で認定を受けた事業計画の紹介

農商工連携とは、農林漁業者と中小企業者が共同して新たな商品等の開発に係る計画について国が認定を行い、この計画に基づく事業に対し、補助金、低利融資等の支援を行うことにより、地域経済を活性化する取組です。これまで、栃木県では5件の計画が認定されていました。

平成22年2月10日に新たに認定された、「(株)まるつね」と「隅内氏」、「(株)白相酒造」と「那須ぎんなん倶楽部」、「ワイズティーネットワーク(株)」と「山口果樹園」とが連携した3件を加えて、県内で8件の認定となりました。

今回は、この3件の計画の概要をご紹介します。

### 1 太陽と完熟野菜のマリアージュ

～自然乾燥にこだわった

ドライ野菜の開発と販売～

(株)まるつねは、消費者ニーズを満たす地元産完熟野菜を用いた自然乾燥加工を行って高付加価値商品として、料理用や菓子材料として商品化・事業化してきた中で、青果物市場の影響を受けない高付加価値商品による安定収入・経営安定化を目指してきた隅内氏と取り組むこととなった。



トマトといちごの乾燥



トマトの乾燥後製品

### 2 大田原の大地が育んだ“ぎんなん(銀杏)”を用いたお酒などの開発・事業化

大田原市地域の農家30名により「那須ぎんなん倶楽部」設立して、銀杏栽培に取り組み安定した収穫を見込める状況になったことから、新たな活用として大田原市の市の木イチョウをテーマとした地域産品開発として酒類を製造する(株)白相酒造と連携することとなった。



収穫を待つぎんなんの実



ぎんなんを原料とした焼酎

### 3 宇都宮産の梨を使った紅茶開発と、おもてなし紅茶文化の普及促進事業

ワイズティーネットワーク(株)が「梨のおもてなし紅茶」を開発・商品化するためには、山口果樹園が取り組む梨の高付加価値化の取り組みと生産する良質の梨及び皮・果肉の乾燥技術が、新しく開発する紅茶のフレーバーとして必要不可欠であることから連携に至った。



山口果樹園のなし「にっこり」



おもてなし紅茶



## 平成22年度（第19回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集

活力ある農業の姿や農村の情景に親しみ、これを描くことによって農業・農村のすばらしさを知るとともに、優秀作品を展示して広く県民の方々に農業・農村の理解と関心を深めていただくために開催します。

1. 応募資格 県内の小学校で学ぶ児童

参 考 21年度（18回）最優秀賞作品

2. 募集テーマ 私が描く農業・農村

農村の風景、農家の人々の暮らし、農作業の風景、市場や農産物直売所の情景、学校行事の体験農業の様子など

小学年の部

佐野市立城北小 2年

清水 咲綾さん



3. 作品の規格

B3の画用紙（1～4年生はB4でも可）

4. 応募方法

小学校で取りまとめ、9月7日までに市町の農政担当課に送付して下さい。

中学年の部

日光市立落合西小 4年

柴田翔太郎さん



5. 表 彰

小学年（1～2年生）、中学年（3～4年生）、高学年（5～6年生）の区分毎に、最優秀賞（栃木県知事賞）各1点、優秀賞（栃木県教育長賞・農政部長賞）各2点、優良賞（ふるさととちぎ21活性化塾長賞）各10点。

高学年の部

小山市立羽川小 6年

篠崎 香月さん



6. 入賞作品の展示

10月23～24日に開催される「とちぎ食と農ふれあいフェア」会場及び県庁15階展望ロビーに展示します。

## 平成22年度美しいとちぎのむら写真コンテストの募集

美しい農村地域の風景や四季折々の自然を将来を担う中・高生に撮影いただき、広く農業・農村への理解と関心を深める契機とする。

1. 応募資格 県内の中学校・高校に在学する生徒

参 考 平成21年度最優秀作品

2. 応募テーマ 躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう

部門1 農業に生き生きと携わる人々の姿

部門2 農地、水、農村環境を守る活動

作新学院 2年生

山野邊友梨さん

3. 応募規格

四つ切り又はA4版カラーもしくは白黒プリント（デジタル合成処理は不可）



4. 応募上の注意

作品は県内でフィルムカメラ、デジタルカメラで撮影した未発表の写真

応募点数は5点以内

5. 応募方法

応募写真の裏に応募票を貼付し、11月30日までの期間に農業振興公社に送付下さい。

宇都宮白楊高校 3年生

関谷 栄一さん



6. 表 彰

最優秀賞 各部門1点（栃木県知事賞）

優 秀 賞 各部門2点（栃木県農政部長賞）

入 選 各部門10点以内

7. 入賞作品の発表

入賞作品は公社ホームページで紹介する。平成23年2月26日～3月4日に栃木県庁15階展望ロビーで展示します。



## 平成22年度とちぎ夢大地応援団実施計画

今年度は継続9地区、新規2地区でボランティアを募集いたします。沢山の方の応援をお願いいたします。

実施団体名	市 町 名	開催月日	作業内容	写 真 等
国見棚田保全組合	那須烏山市国見	11月6日(土)	棚田周りの草刈り や地域通貨を使用した交流会	 国見地区
和田用水 ホテルの里の会	鹿沼市中粕尾	9月26日(日)	ホテル水路の清掃 や種まき	
関谷上の内 むらづくり 推進協議会	那須塩原市関谷	9月5日(日)	親水水路の清掃	 小貫地区
小貫焼森の里 づくり協議会	茂木町小貫	11月21日(日)	登山道の整備	
下彦間地区むら づくり協議会	佐野市下彦間	8月22日(日)	カタクリ自生地の 整備	 文挾地区
文挾ため池 ふれあいの里 づくり協議会	日光市文挾	11月14日(日)	ため池の浚渫や種 まき	
虹色の里 あじ彩協議会	茂木町河又	11月7日(日)	景観作物の植付け	 大木須地区
大木須むらづくり 推進委員会	那須烏山市大木須	10月9日(土)	休耕田の草刈りと ソバ刈り	
芦野の里 づくり委員会	那須町芦野	11月6日(土)	景観保持の草刈り	
下平地区 遊休農地解消組合	那珂川町健武	6月26日(土)	ソバ畑復元に向け た草・竹刈り	今年度新規に実施する地区です。
佐野市下秋山町会	佐野市秋山	11月中旬	休耕田畑の草刈り	



## 食と農の組織活動を支援

当農業振興公社では平成21年度から、農村の豊かな資源の保全や食育の推進に取り組み組織活動を支援するため、公社独自の事業として「食と農の組織活動支援事業を」実施しています。事業対象となる組織は、とちぎ夢大地応援団活動団体やとちぎ食育応援団活動団体、地域で食と農を推進する自主的活動団体などです。昨年度は20の団体に助成金を交付しましたが、本年度も26の団体から申請があり、助成金を交付しています。

本年度助成を決定した団体の活動事例を紹介すると、まず、とちぎ夢大地応援団活動団体では、遊休農地の解消や里山周辺の景観保全はもとより、都市農村交流促進のための地域通貨の運用に積極的に活用しています。

また、食育応援団活動団体では、親子参加の田植えや収穫、かまど炊飯を体験する活動、さつまいも栽培を通じた都市と農村の交流、親子料理教室や地元食材を使った料理の開発などがあります。

さらに、食と農を推進する自主的活動団体では大学や企業、幼稚園などと連携し、地域の特産物を開発する活動、黒大豆オーナー制度を設け、大豆料理を味わう活動、地元産の小麦粉を使った鍋焼きパンやそば粉を使ったダックワーズの研究開発など、多彩な事例が見られます。

当農業振興公社では、今後とも農村地域の活性化に向け、食と農に取り組む自主的活動を、積極的に支援して参ります。



## 「つなごう！食と農実践講座」を開催

食べものの背景にある「いのち」をつなぐ農業の重要性を広く県民の皆様理解していただくため、受講者自らが「食と農の伝道者」となり、講座で学んだことを地域に伝えていただくことを目的とした「つなごう！食と農実践講座」を開催しています。

この講座は、「とちぎの“食”の伝統を知る・見る・食べる」をテーマとした「食のコース」と「とちぎの“農”の大切さを知る・見る・食べる」をテーマとした「農のコース」及び両方のコースからなる「食と農のコース」で構成しています。

8月11日(水)に開催する開講式と共通講座でスタート。12月までに計12回の講座を開催します。

※なお、今年度の募集は終了しました。

栃木県農業振興公社では、県民の皆様に対して食と農の理解の輪を広めるための取組を今後とも行って参ります。





## 農業振興公社ホームページに「チャレンジしよう農商工連携」の開設

農業振興公社では、新たな商品開発や技術の革新に挑戦しようとしている農業者等を支援するため、県の委託を受けて、シンポジウムやセミナー、農商工連携相談会等を開催して、アグリビジネスを推進しています。

このような、農商工連携に関する取り組み状況を多くの関係者に理解していただくため、本年7月から公社のHPに今までの成果や支援の内容等を掲載して開設いたしましたので、是非ご活用願います。



<http://www.tochigi-agri.or.jp>



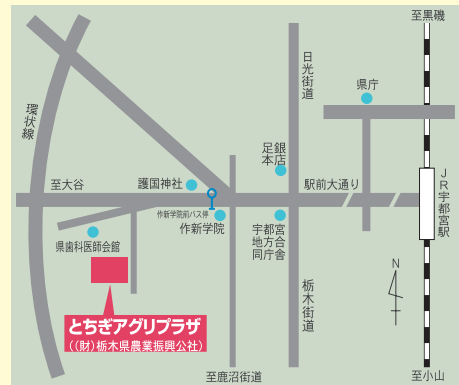
<http://www.tochigi-agri.or.jp/noushoukou/index.html>

### お知らせ

## とちぎアグリプラザまつりが開催されます

- 1 日時 平成22年10月17日(日) 10時～15時
- 2 場所 とちぎアグリプラザ
- 3 内容

農商工連携事業等で開発された商品の展示販売・県内農産物及び特産品の展示即売  
 食育情報の発信・とちぎの食材を活かした料理・農業体験・就農相談等



## とちぎ発 元気農業

ふるさととちぎ21活性化塾だより50号

発行日 平成22年 8月12日  
 編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾  
 所在地 〒320-0047  
 宇都宮市一の沢2-2-13  
 (財)栃木県農業振興公社内  
 TEL 028(648)9511(代)  
 FAX 028(648)9517  
<http://www.tochigi-agri.or.jp>  
 Eメール: info@tochigi-agri.or.jp

